

TR	芸術教養入門 芸術教養学科における学習の体系と求められる基本的姿勢	科目コード： 81100
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31	
単位修得試験	有	
担当者	早川克美*、上村博、加藤志織、下村泰史、野村朋弘	

科目概要と到達目標

この授業は、大学でまなぶということ、芸術教養学科でまなぶということについて、意義と内容・構成を正しく理解し、学びある学生生活を円滑に進める基本的姿勢を身につけることを目的としています。学びや学生生活に対する不安や疑問を解消するための授業です。芸術教養学科に必要な基本的事項を解説していますので、必要に応じて学習ガイドを参照し、ノートにまとめながら履修されることをおすすめします。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	airU学習ガイド (http://guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/)
参考文献・URL	airU学習ガイド http://guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/ 芸術教養学科WEB卒業研究展 http://g.kyoto-art.ac.jp/

レポート課題 課題コード： 11

課題の内容

大学入学の目的、芸術教養学科でまなびたいこと、学びを実現するためにどのように取り組むか、の以上3点について1600字程度にまとめて記述してください。

ただし、「学びを実現するためにどのように取り組むか」については、今年度または次年度の一年間の履修計画（履修時期[春期・夏期・秋期・冬期]と科目名）を示しながら、その計画とした意図と実現のための工夫について説明してください。

※なお、個人の履修計画について具体的なお相談はコンシェルジュ（事務局）までお問い合わせください。卒業にかかわる重要事項のため、事務局宛での質問メール以外ではお答えできません。

TR	<h1>芸術教養研究1</h1> <p>人やグループに焦点をあてた、今日の デザイン・芸術活動の個別例研究</p>	科目コード： 81101
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	早川克美*、實淵洋次、姜尚美	

科目概要と到達目標

生活環境とデザイン、プロダクト、コミュニティの今日的ありかたについて、具体的な個人や団体の活動例をとりあげて様々な角度から考察する力をつけることを目的としています。

教材は、現在の有意義な美術・デザインの実践例を取材したWebマガジン「アネモメトリ」の形で提供し、事例の実像にせまります。

制作行為はもとより、実践的な活動やそのデザインはさまざまな具体的状況のもとで行われ、どこでも一律に通用する方法論には限界があります。

個人や団体の活動例について、一面的に評価するのではなく、批判的に捉えたり、他事例と比較対照させるなど、様々な角度から考察する力をつけることを目的としています。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示
- ・ 着眼点の独自性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	Webマガジン『アネモメトリ』
参考文献・URL	Webマガジン『アネモメトリ』 「特集」 記事一覧

課題の内容

【設問1】

まず、『アネモメトリ』の「特集」の事例から、特に関心をもった今日的な活動例をひとつ選び、その活動の特色をまとめてください。（800字程度）

*アネモメトリ対象期間

No.0（2012年12月）～提出時点の最新号 までを対象とします。

【設問2】

つぎに、自分の周囲で類似した活動がないか調べ、それを具体的に紹介してください。（800字程度）

【設問3】

最後に、設問1で取り上げた『アネモメトリ』の「特集」事例と自分で調べた事例とを比較対照しつつ、それぞれの活動の課題と可能性を論じてください。（1600字程度）

TR	<h2 style="margin: 0;">芸術教養研究2</h2> <h3 style="margin: 0;">時間と空間に焦点をあてた、今日のデザイン・芸術活動の個別例研究</h3>	科目コード： 81102
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	下村泰史*、青柳千亜紀、土屋直子	

科目概要と到達目標

本科目は、「芸術教養研究1」と同様に、生活環境とデザイン、プロダクト、コミュニティを扱います。

個別に取材した今日的な意匠制作を教材として、その技術がどのような生活環境のもとで成立したのか、またその背景を多角的な視点で理解するとともに、みずからの問題として考察する力を養います。

制作行為やデザインはさまざまな具体的状況のもとで行われ、どこでも一律に通用する方法論には限界があります。

個人や団体の活動例について、一面的に評価するのではなく、様々な角度から考察する力をつけることを目的としています。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示
- ・ 着眼点の独自性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	Webマガジン『アネモメトリ』
参考文献・URL	Webマガジン『アネモメトリ』「特集」記事一覧 http://magazine.air-u.kyoto-art.ac.jp/feature/

課題の内容

【設問1】

対象期間*内の『アネモメトリ』特集記事で扱った事例のなかから、場や空間のデザインに関わるものを2つ選び、それぞれの内容を対比的に考察してください。（1600字程度）

【設問2】

対象期間*内の『アネモメトリ』特集記事で扱った事例のなかから、イベントや行事のデザインとして優れていると思われるものを2つ選び、それぞれの内容を対比的に考察してください。（1600字程度）

※各設問ともレポート冒頭に、とりあげる2事例の「事例名称」「掲載号（複数号にわたってもよい）」を明示すること。

*アネモメトリ対象期間

No.0（2012年12月）～提出時点の最新号 までを対象とします。

TR	芸術教養研究3		科目コード： 81103
	特定の人物や集団をとりあげ、その活動を歴史的に位置づけます		
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験		
課題提出形態	airU		
課題数	1		
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。		
単位修得試験	有		
担当者	上村博*、實淵洋次、姜尚美、井面舞		

科目概要と到達目標

今日まで培われてきた日本を含む東アジアの伝統的な生活スタイルや、デザイン、コミュニケーションなどについて、具体的な個人や団体の活動例をとりあげて様々な角度から考察する力をつけることを目的とします。

教材は、現在の有意義な美術・デザインの実践例に取材した月々のWebマガジンの形で提供し、事例の実像にせまります。

伝統的な生活文化も、さまざまな具体的状況のもとで生まれており、その成立の要因は単純ではありません。

個人や団体の活動例について、一面的に評価するのではなく、様々な角度から考察する力をつけることを目的としています。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示
- ・ 着眼点の独自性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	Webマガジン『アネモメトリ』
参考文献・URL	Webマガジン『アネモメトリ』「特集」記事一覧 http://magazine.air-u.kyoto-art.ac.jp/feature/

課題の内容

【設問1】

まず、指定された『アネモメトリ』「特集」記事*の中から、特に関心をもった活動例をひとつ選び、その活動の持つ文化史的な背景をまとめてください。（1600字程度）

【設問2】

つぎに、設問1で取り上げた「特集」の事例に類似した伝統的な行事、産業、活動がないか、自分の周辺を観察したり、指定教材以外の資料にあたって探してください。そしてその自分で調べた事例を簡潔に紹介するとともに、設問1で取り上げた事例と比較対照し、それぞれの異同を指摘してください。（1600字程度）

*指定特集記事は以下のとおりです。

第6-7号（2013.06-07）

市と、ひとと、まちと。

第8-9号（2013.08-09）

京都 西陣の町家とものづくり

第12-13号（2013.12-2014.01）

暮らしのなかの「うつくしいかたち」

第20-21号（2014.08-09）

<ひと>と<もの>で光を呼び戻す 東京の下町

第28-29号（2015.04-05）

奥能登の知恵と行事 息づく豊かさ

第32-33号（2015.08-09）

柳原照弘 状況をデザインし、好循環を生み出す

*第32-33号でとりあげた事例のその後についても参考にしてください。

第46号（2017.03） しくみをつくり、まちを動かす

TR	芸術教養研究4		科目コード： 81104
	伝統的な技術や産業をとりあげた、その成立過程と今後についての考察		
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験		
課題提出形態	airU		
課題数	1		
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。		
単位修得試験	有		
担当者	野村朋弘*、平澤加奈子、相馬和将		

科目概要と到達目標

伝統的な生活文化や意匠制作等について、具体的な実践例をとりあげて考察する力をつけます。
特に個別に取材された伝統的な意匠制作等を教材として、その技術がどのような生活環境のもとで成立したのか、先行研究から学び理解します。

伝統的な生活文化も、さまざまな具体的状況のもとで生まれており、その成立の要因は単純ではありません。その成立過程などを、先行研究を収集・分析することによって把握します。

そして、個人や団体の活動例について、一面的に評価するのではなく、様々な角度から考察する力をつけることを目的としています。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示
- ・ 着眼点の独自性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格基準とします。

成績評価方法は、全課題の平均と試験の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	Webマガジン『アネモメトリ』
参考文献・URL	Webマガジン『アネモメトリ』「特集」記事一覧 http://magazine.air-u.kyoto-art.ac.jp/feature/

課題の内容

【設問1】

『アネメトリ』特集記事で扱った事例のなかから、自身が問題感心を持った伝統的な技術に関わるものをひとつ選び、それについての研究書や論文、あるいは参考となる資料や報告書について、書誌情報をレポート本文に複数列挙し、その一つ一つについて内容をまとめてください。（1600字程度）

- ・持続的に継続されているものであれば、20世紀以降の技術を取り上げても構いません。
 - ・レポート冒頭に『アネメトリ』の何号の特集記事から取り上げたかを明示して下さい。なお、特集記事内の「伝統的技術に関する記載があるもの」を選んで下さい。
 - ・この課題では、自身が問題関心を持った伝統的な技術に関して、基礎的な情報から成立経緯、変遷や今日の有り方などを諸文献にあたり理解することが重要です。
 - ・なお、参考文献の挙げかたについては、著者名、『書名』、発行所、発行年が必要になります。もし学術雑誌にある論文であれば、著者名、「論文名」、『学会誌名』と号数、発行所、発行年になります。また、書籍の書名は、『』、論文の題名は「」で括ります。
- 具体例は、各期のスタート時に、授業のコミュニティの「道標」で説明しますので参照して下さい。

【設問2】

その技術を今日維持するための手段について、考察して下さい。（1600字程度）

*アネメトリ対象期間

No.0（2012年12月）～提出時点の最新号 までを対象とします。

TX	<h2 style="margin: 0;">芸術教養演習1</h2> <p style="margin: 0;">景観やプロダクト、食文化など、特定の対象についてのデザイン・芸術活動の調査報告</p>	科目コード： 81181
配当年次	3年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「芸術教養研究1～4」のうち1科目以上を履修済みであることが望ましい。	
履修方法	自己紹介／概要発表→ディスカッション→レポート課題	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【8/31締切分】08/15～08/31 【2/28締切分】02/15～02/28 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	下村泰史*、上村博、加藤志織、野村朋弘、早川克美、實淵洋次、横地留奈子、熊倉一紗	

科目概要と到達目標

「卒業研究」に向けて、生活環境における美的芸術ないしはデザイン活動の実践例について、皆さんが調査し、その意義を考察することを目標とします。

そのため、教材として、伝統的行事／食文化／工芸・美術・プロダクト／景観の4つのジャンルに相当する対象を各自で調査呈示し、皆さんのディスカッションや質疑応答を踏まえて、レポートを作成します。

ディスカッションでの質疑応対及びレポートによって成績が総合的に評価されます。

生活環境における美的芸術ないしはデザイン活動の実践例をさまざまな角度から検証して意義を考察すること。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示
- ・ ディスカッションへの参加状況

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

課題と授業コミュニティでの活動の総合評価

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	芸術教養学科カリキュラムマップ http://guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/guide/5254

課題の内容

芸術・デザイン活動の興味深い事例に関する各自の現地調査の報告をレポートとして提出していただきます。

調査対象として自分が興味を持った任意の場所・題材を選び、3200字程度にまとめてください。報告では、事実の観察記録と併せて、どの点がうまく行っていて、どの点が十分でないのかを考察してください。

選ぶ事例は次の4つのジャンルに分類されるものとします（複数にまたがっても可）。

- ・ 伝統行事
- ・ 食文化
- ・ 工芸・美術・プロダクト
- ・ 景観

なお、レポートで扱う題材は、「芸術教養研究1~4」で取り上げたものでも構いません。

発表に対する質疑応答やディスカッション内容を踏まえてレポート作成を行っていただきますので、もしも発表内容から大幅に変更する（発表と異なる事例やジャンルを扱うなど）場合は、それが妥当かどうかあらかじめご質問ください。

「学習のポイント」と「注意事項」をしっかりと理解した上で開始しましょう。

TX	芸術教養演習2		科目コード： 81182
	イベント・空間・情報などの観点から 具体的な事例を調査報告する		
配当年次	3年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	「芸術教養研究1～4」のうち1科目以上を履修済みであることが望ましい。		
履修方法	自己紹介／概要発表→ディスカッション→レポート課題		
課題提出形態	airU		
課題数	1		
課題提出期間	第1課題 【5/31締切分】05/15～05/31【11/30締切分】11/15～11/30 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。		
単位修得試験	無		
担当者	野村朋弘*、上村博、加藤志織、下村泰史、早川克美、實淵洋次		

科目概要と到達目標

「卒業研究」に向けて、行事や食文化といった指定された研究課題だけでなく、自発的な研究対象の提案も募りつつ、地域の優れた芸術資源や特徴的なデザイン実践を発掘します。

そしてその歴史的な位置づけのみならず、今日それを積極的に守るための活動方法や対外的な呈示方法の提案までを教員の助言や課題に取り組む皆さんの間の意見交換とともにレポートとして作成します。

ディスカッションや質疑応対及びレポートによって成績が総合的に判断されます。

生活環境における美的芸術ないしはデザイン活動の実践例をさまざまな角度から検証して意義を考察すること。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示
- ・ ディスカッションへの参加状況

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

課題と授業コミュニティでの活動の総合評価

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	芸術教養学科カリキュラムマップ http://guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/guide/5254

課題の内容

自分で実際に接することのできるさまざまな芸術活動、デザイン実践例のなかで優れたものをひとつ選んでください。

その優れた点を今後さらに伸長するためには、どうすればよいのかを、根拠や他の参考となる例も示しつつ考察してください。（3200字程度）

選ぶ事例は「芸術教養演習1」でのジャンル区分「伝統行事」「食文化」「景観」「工芸・美術」に分類されないものでも結構です。扱う題材は、「芸術教養研究1～4」で取り上げたものでも構いません。

ただし、それについて記述する際に、次の4つのいずれかの観点から、その優れた点、改善できる点を論じてください（複数にまたがっても可）。

- ・イベントのデザイン
- ・空間造形
- ・情報編集
- ・コミュニティ運営

選んだ事例についてどのような観点からどのような評価・提案ができるのか、概要を公表し、そこでの質疑応答やディスカッション内容を踏まえてレポート作成を行っていただきますので、もしも発表内容から大幅に変更する（発表と異なる事例や観点を扱うなど）場合は、それが妥当かどうかあらかじめご質問ください。

「学習のポイント」と「注意事項」をしっかりと理解した上で開始しましょう。

TX	卒業研究 特定のデザイン・芸術活動やその成果 としての地域の文化資産についての考 察	科目コード： 81191
配当年次	4年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	1年次入学生： 総単位数122単位以上、うち専門教育科目58単位以上（うちWS科目30単位以上）合格済み であること。 3年次編入学生： 総単位数60単位以上、うち専門教育科目58単位以上（うちWS科目30単位以上）合格済み であること。 なお「芸術教養演習1」「芸術教養演習2」を単位修得済みであることが望ましい。	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【7/30締切分】07/21～07/30【1/30締切分】01/21～01/30 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	早川克美*、上村博、加藤志織、下村泰史、野村朋弘、熊倉一紗	

科目概要と到達目標

皆さんが、学科専門教育科目群をはじめとする本学科でのこれまで学びを集積し取り組むのが「卒業研究」です。それぞれの興味関心や生活環境に基づき、地域で実践されているデザイン活動や文化・芸術活動などの取り組みを取り上げ考察し、【文化資産評価報告書】（同時にアトリソースのガイドブックともなるもの）としてまとめます。

本科目では、各地で実践されているデザイン・芸術活動に関して情報収集を行い分析・考察して報告書を作成します。作成を通じて、その活動の長短を歴史的かつ批判的に評価する能力を身につけます。また可能な場合には自らの携わる制作活動や教育普及活動なども客観的な評価対象として取り上げることが可能です。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・受講生自身の見解の明示
- ・着眼点の独自性

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

成績の評価方法は、提出課題の評価です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	芸術教養学科カリキュラムマップ http://guide.air-u.kyoto-art.ac.jp/guide/5254 芸術教養学科WEB卒業研究展 http://g.kyoto-art.ac.jp/

第1課題

課題コード：11

課題の内容

【文化資産評価報告書の作成】

自身の問題関心に沿った特定地域でのデザイン・芸術活動の評価報告書を作成します。(3200字程度)
評価対象は地域の文化遺産に関わるもの、今日的な制作、上演活動のいずれを選んでも良いです。
ジャンルも造形物、食文化、出版文化、景観、イベントなど、制作的な契機があれば何でも結構です
(棚田や並木も自然の風景というだけではなく、人工的な制作物でもあります)。自分自身の関わる芸術的な活動を取りあげることもできます。特に評価対象に関して、どのような点がデザインとして優れているかも考察して下さい。「芸術教養演習1・2」で取り上げた事例でも結構です。

報告に際しては必ず次の5点を明記してください。

- 1: 基本データ(所在地、構造、規模など)
- 2: 事例の何について積極的に評価しようとしているのか。
- 3: 歴史的背景は何か(いつどのように成立したのか)。
- 4: 国内外の他の同様の事例に比べて何が特筆されるのか。
- 5: 今後の展望について。

以上の5点の順序は問いません。

WS	芸術教養講義1	科目コード： 81001
芸術活動の今を端的に示すデザインの ありかたとその基本的な思考法を学ぶ		
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	早川克美*	

科目概要と到達目標

＜今日におけるデザインの方法論を学ぶ＞

この講義は、生活者の視点で、社会や生活におけるデザインへのまなざしを深めていくことを目的としています。○○デザイナーといった職能で分けられたデザインではなく、生活者にとってのデザインとはどのようにあるべきかを考えていくものです。前半では、今日の主流となっているデザイン論として「人間中心デザイン」と「デザイン中心デザイン」の2つを取り上げて学びます。後半では、領域を横断して活動する実践者の事例から、芸術やデザインによって生活環境を見直す知恵を考察していきます。

この授業は、芸術教養講義2～5の概論的位置づけを持っています。

この講義の目標は「デザインにおける思考と実践についての学習と考察」です。

デザインは生活の中に埋め込まれた意味であり技術や知恵です。デザインは身のまわりの環境を作り替える術、与えられた人間の条件のなかで、いかに良く生きるかを探る術ともとらえることができるでしょう。問題を発見、課題として精査し、最終的に目に見えるかたちや行為に、意味を与えて整えることがデザインであると私は考えています。

それはプロのデザイナーだけの専有物ではなく、すべての人が持ち得る能力なのだと思います。デザインへの先入観を捨てて、講義に参加し、多くのことに疑問を持ち、ボーダレスなデザインの世界を発見してください。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	早川克美著『私たちのデザイン1 デザインへのまなざし ―豊かに生きるための思考術』(芸術教養シリーズ17)、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 デザインとは何か?
- ・2章 ユーザー中心主義 ― 人間を中心にすえたデザイン思考
- ・3章 観察から生まれるデザイン その1
- ・4章 観察から生まれるデザイン その2
- ・5章 デザイン主導主義 ― 未来を創り出すデザイン
- ・6章 デザインという思考 ― 未来の豊かさのために
- ・7章 変化するデザインの領域
- ・8章 行為から場を生み出す ― 建築家・谷尻誠
- ・9章 気配を創造する ― 音のコンサルタント・石田康二
- ・10章 地域とつながる ― デザインディレクター・平野湊太郎
- ・11章 街と人とのコミュニケーション ― キュレーター・岡田勉

- ・12章 他者との関係をテ`サ`インする — プランナー・松田朋春
- ・13章 進化するものつ`くりのテ`サ`イン — テ`サ`インエンジニア・田川欣哉
- ・14章 おもてなしのデザイン — 料理人・中東久人
- ・15章 私たちのデザイン

WS	<h1 style="margin: 0;">芸術教養講義1</h1> <p style="margin: 0;">芸術活動の今を端的に示すデザインの ありかたとその基本的な思考法を学ぶ</p>	科目コード： 81001
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	早川克美*	

科目概要と到達目標

＜今日におけるデザインの方法論を学ぶ＞

この講義は、生活者の視点で、社会や生活におけるデザインへのまなざしを深めていくことを目的としています。○○デザイナーといった職能で分けられたデザインではなく、生活者にとってのデザインとはどのようにあるべきかを考えていくものです。前半では、今日の主流となっているデザイン論として「人間中心デザイン」と「デザイン中心デザイン」の2つを取り上げて学びます。後半では、領域を横断して活動する実践者の事例から、芸術やデザインによって生活環境を見直す知恵を考察していきます。

この授業は、芸術教養講義2～5の概論的位置づけを持っています。

この講義の目標は「デザインにおける思考と実践についての学習と考察」です。

デザインは生活の中に埋め込まれた意味であり技術や知恵です。デザインは身のまわりの環境を作り替える術、与えられた人間の条件のなかで、いかに良く生きるかを探る術ともとらえることができるでしょう。問題を発見、課題として精査し、最終的に目に見えるかたちや行為に、意味を与えて整えることがデザインであると私は考えています。

それはプロのデザイナーだけの専有物ではなく、すべての人が持ち得る能力なのだと思います。デザインへの先入観を捨てて、講義に参加し、多くのことに疑問を持ち、ボーダレスなデザインの世界を発見してください。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	早川克美著『私たちのデザイン1 デザインへのまなざし ―豊かに生きるための思考術』(芸術教養シリーズ17)、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 デザインとは何か?
- ・2章 ユーザー中心主義 ― 人間を中心にすえたデザイン思考
- ・3章 観察から生まれるデザイン その1
- ・4章 観察から生まれるデザイン その2
- ・5章 デザイン主導主義 ― 未来を創り出すデザイン
- ・6章 デザインという思考 ― 未来の豊かさのために
- ・7章 変化するデザインの領域
- ・8章 行為から場を生み出す ― 建築家・谷尻誠
- ・9章 気配を創造する ― 音のコンサルタント・石田康二
- ・10章 地域とつながる ― デザインディレクター・平野湊太郎
- ・11章 街と人とのコミュニケーション ― キュレーター・岡田勉

- ・12章 他者との関係をテ`サ`インする — プランナー・松田朋春
- ・13章 進化するものつ`くりのテ`サ`イン — テ`サ`インエンジニア・田川欣哉
- ・14章 おもてなしのデザイン — 料理人・中東久人
- ・15章 私たちのデザイン

WS	芸術教養講義2	科目コード： 81002
	私たちの暮らしのリズムを刻むイベントや行事の持つ意義を考察するための視点	
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	中西紹一*、早川克美	

科目概要と到達目標

＜「時間のデザイン」に関する理論的背景を学ぶ＞

この講義では、「時間のデザイン」という概念の理論的背景、特に時間の多元性に着目した文化人類学や社会学、歴史学等の学説を学びながら、「時間のデザイン」とは何かについて学びます。

＜アートや環境、地域活性といったイベントにおける「時間のデザイン」を学ぶ＞

アート、環境、地域活性等で実施される、様々な規模や目的を持ったイベントに着目し、それらに埋め込まれた「時間のデザイン」を読み解きながら、時間をめぐるデザインのあり方とその意義について考察していきます。

「時間のデザイン」の理論的背景、様々な事例を通して学びながら、自分たちの身近にある行事やイベントにどのような時間のデザインが埋め込まれており、地域や生活にどのような影響を与えているのかを考えることのできる視点の獲得を目指します。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	中西紹一・早川克美編『私たちのデザイン2 時間のデザイン 一経験に埋め込まれた構造を読み解く』（芸術教養シリーズ18）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 時間のデザインにアプローチするために
- ・2章 普遍的な時間のデザイン
- ・3章 歴史の再構成という時間のデザイン
- ・4章 季節感に見られる時間のデザイン
- ・5章 現代社会に見られる時間のデザインの特徴
- ・6章 スペシャリストが着目する時間のデザイン
- ・7章 プログラムとストーリーという時間のデザイン
- ・8章 はじまりと終わりを巡る時間のデザイン
- ・9章 エコイベントが変える未来の時間
- ・10章 フロー体験という時間のデザイン
- ・11章 プロジェクション・マッピングが変える都市の時間
- ・12章 歴史と先進が融合する時間のデザイン
- ・13章 アートプロジェクトにおける「越境する時間感覚」
- ・14章 作品そのものに「ダイブする」時間のデザイン
- ・15章 時間のデザインを振り返る

WS	芸術教養講義2	科目コード： 81002
	私たちの暮らしのリズムを刻むイベントや行事の持つ意義を考察するための視点	
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	中西紹一*、早川克美	

科目概要と到達目標

＜「時間のデザイン」に関する理論的背景を学ぶ＞

この講義では、「時間のデザイン」という概念の理論的背景、特に時間の多元性に着目した文化人類学や社会学、歴史学等の学説を学びながら、「時間のデザイン」とは何かについて学びます。

＜アートや環境、地域活性といったイベントにおける「時間のデザイン」を学ぶ＞

アート、環境、地域活性等で実施される、様々な規模や目的を持ったイベントに着目し、それらに埋め込まれた「時間のデザイン」を読み解きながら、時間をめぐるデザインのあり方とその意義について考察していきます。

「時間のデザイン」の理論的背景、様々な事例を通して学びながら、自分たちの身近にある行事やイベントにどのような時間のデザインが埋め込まれており、地域や生活にどのような影響を与えているのかを考えることのできる視点の獲得を目指します。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	中西紹一・早川克美編『私たちのデザイン2 時間のデザイン ―経験に埋め込まれた構造を読み解く』（芸術教養シリーズ18）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 時間のデザインにアプローチするために
- ・2章 普遍的な時間のデザイン
- ・3章 歴史の再構成という時間のデザイン
- ・4章 季節感に見られる時間のデザイン
- ・5章 現代社会に見られる時間のデザインの特徴
- ・6章 スペシャリストが着目する時間のデザイン
- ・7章 プログラムとストーリーという時間のデザイン
- ・8章 はじまりと終わりを巡る時間のデザイン
- ・9章 エコイベントが変える未来の時間
- ・10章 フロー体験という時間のデザイン
- ・11章 プロジェクション・マッピングが変える都市の時間
- ・12章 歴史と先進が融合する時間のデザイン
- ・13章 アートプロジェクトにおける「越境する時間感覚」
- ・14章 作品そのものに「ダイブする」時間のデザイン
- ・15章 時間のデザインを振り返る

WS	芸術教養講義3 空間から日本の文化の本質を考え、理解する	科目コード： 81003
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	夏期	
課題提出期間	08/21～08/28	
全体講評 視聴期間	09/13～09/20	
担当者	川添善行*、早川克美	

科目概要と到達目標

＜空間のデザインを学ぶ＞

この講義の目的は、空間のデザインのノウハウのようなものを教えることではありません。むしろ、「日本の空間の本質とは何か」について考察することを目的としています。

現代日本の空間について考えるにあたり、西洋の建物だけを見るのではなく、日本の歴史だけをふりかえるのでもありません。むしろ、日本の空間を理解するための15の対の概念によって概説していきます。

そして「今=ここに生きる」私たちがもう一度自覚しなくてはならない「空間における日本」とは何か？を考えていくものです。

15の対の言葉で構成された各章の事象から、空間を感じ取る「見方」を獲得することを目指します。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	川添善行著、早川克美編『私たちのデザイン3 空間にこめられた意思をたどる』(芸術教養シリーズ19)、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 軸線と迷宮 / 巖島神社と伊勢神宮
- ・2章 加法と乗法 / 砺波平野と竹富島
- ・3章 抽象と感情 / パルテノン神殿とノートル・ダム大聖堂
- ・4章 明示と重層 / 江川家住宅と閑谷学校
- ・5章 解釈と手法 / テンピエットとラウレンツィアーナ図書館
- ・6章 連動と受容 / 釜無川と四万十川
- ・7章 社会と個人 / 二条城二の丸御殿と臥龍山荘
- ・8章 伏臥と屹立 / 小屋平ダムと黒部ダム
- ・9章 未来と芸術 / ウィーン郵便貯金局とシュレーダー邸
- ・10章 技術と都市 / 熊本県立美術館と広島ピースセンター
- ・11章 保存と生業 / 内子と宇治
- ・12章 様式と機能 / 中央停車場と復興小学校
- ・13章 構築と出現 / 東大寺南大門と大谷石地下採掘場跡
- ・14章 瞬間と永遠 / 法隆寺西院伽藍と三仏寺投入堂
- ・15章 求心と遠心 / セイナツツアロ村役場と軽井沢の山荘

WS	芸術教養講義3 空間から日本の文化の本質を考え、理解する	科目コード： 81003
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	冬期	
課題提出期間	02/21～02/28	
全体講評 視聴期間	03/13～03/20	
担当者	川添善行*、早川克美	

科目概要と到達目標

＜空間のデザインを学ぶ＞

この講義の目的は、空間のデザインのノウハウのようなものを教えることではありません。むしろ、「日本の空間の本質とは何か」について考察することを目的としています。

現代日本の空間について考えるにあたり、西洋の建物だけを見るのではなく、日本の歴史だけをふりかえるのでもありません。むしろ、日本の空間を理解するための15の対の概念によって概説していきます。

そして「今=ここに生きる」私たちがもう一度自覚しなくてはならない「空間における日本」とは何か？を考えていくものです。

15の対の言葉で構成された各章の事象から、空間を感じ取る「見方」を獲得することを目指します。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	川添善行著、早川克美編『私たちのデザイン3 空間にこめられた意思をたどる』(芸術教養シリーズ19)、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 軸線と迷宮 / 巖島神社と伊勢神宮
- ・2章 加法と乗法 / 砺波平野と竹富島
- ・3章 抽象と感情 / パルテノン神殿とノートル・ダム大聖堂
- ・4章 明示と重層 / 江川家住宅と閑谷学校
- ・5章 解釈と手法 / テンピエットとラウレンツィアーナ図書館
- ・6章 連動と受容 / 釜無川と四万十川
- ・7章 社会と個人 / 二条城二の丸御殿と臥龍山荘
- ・8章 伏臥と屹立 / 小屋平ダムと黒部ダム
- ・9章 未来と芸術 / ウィーン郵便貯金局とシュレーダー邸
- ・10章 技術と都市 / 熊本県立美術館と広島ピースセンター
- ・11章 保存と生業 / 内子と宇治
- ・12章 様式と機能 / 中央停車場と復興小学校
- ・13章 構築と出現 / 東大寺南大門と大谷石地下採掘場跡
- ・14章 瞬間と永遠 / 法隆寺西院伽藍と三仏寺投入堂
- ・15章 求心と遠心 / セイナツツアロ村役場と軽井沢の山荘

WS	芸術教養講義4	科目コード： 81004
モノや出来事を情報として捉え、俯瞰し整理する編集の考え方		
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	紫牟田伸子*、早川克美	

科目概要と到達目標

＜文化情報の編集を学ぶ＞

この講義は、「編集」する思考方法に着目し、社会や生活における様々な問題を俯瞰し「編集」して解決していく方法論を学びます。

ここで扱う「編集」とは、本や映像の編集ではなく、その根本的な考え方です。多種多様な情報や状況から、何を引き出し、何を捨てて再構築するのか。生活の様々な場面で直面する事態に、「編集」する思考は役立ちます。

ゲスト講義やインタビュー、事例を通して、情報を俯瞰・整理・提示する方法論を学んでいきます。

編集という概念を理解し、編集的思考・発想方法を学ぶことにより、自らの生活に取り入れていけるようになることを目指します。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	紫牟田伸子著、早川克美編『私たちのデザイン4 編集学 一つなげる思考・発見の技法』（芸術教養シリーズ20）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 編集とはなにか
- ・2章 編集の基本
- ・3章 編集談義1 編集は時代とともに変化する
- ・4章 情報の編み方
- ・5章 編集談義2 知っていると思っていることを未知化する
- ・6章 編集とデザイン
- ・7章 編集談義3 デジタルテクノロジー時代の編集
- ・8章 「編集力」をつける
- ・9章 「編集力」を活用する
- ・10章 日常を編集する
- ・11章 都市を編集する
- ・12章 場を編集する
- ・13章 地域を編集する
- ・14章 自分を編集する
- ・15章 これから必要とされる「編集力」とは

WS	芸術教養講義4 モノや出来事を情報として捉え、俯瞰し整理する編集の考え方		科目コード： 81004
配当年次	1年次～		
単位数	2		
履修の前提条件	なし		
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴		
課題提出形態	airU		
開講期	秋期		
課題提出期間	11/21～11/28		
全体講評視聴期間	12/13～12/20		
担当者	紫牟田伸子*、早川克美		

科目概要と到達目標

＜文化情報の編集を学ぶ＞

この講義は、「編集」する思考方法に着目し、社会や生活における様々な問題を俯瞰し「編集」して解決していく方法論を学びます。

ここで扱う「編集」とは、本や映像の編集ではなく、その根本的な考え方です。多種多様な情報や状況から、何を引き出し、何を捨てて再構築するのか。生活の様々な場面で直面する事態に、「編集」する思考は役立ちます。

ゲスト講義やインタビュー、事例を通して、情報を俯瞰・整理・提示する方法論を学んでいきます。

編集という概念を理解し、編集的思考・発想方法を学ぶことにより、自らの生活に取り入れていけるようになることを目指します。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	紫牟田伸子著、早川克美編『私たちのデザイン4 編集学 一つなげる思考・発見の技法』（芸術教養シリーズ20）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 編集とはなにか
- ・2章 編集の基本
- ・3章 編集談義1 編集は時代とともに変化する
- ・4章 情報の編み方
- ・5章 編集談義2 知っていると思っていることを未知化する
- ・6章 編集とデザイン
- ・7章 編集談義3 デジタルテクノロジー時代の編集
- ・8章 「編集力」をつける
- ・9章 「編集力」を活用する
- ・10章 日常を編集する
- ・11章 都市を編集する
- ・12章 場を編集する
- ・13章 地域を編集する
- ・14章 自分を編集する
- ・15章 これから必要とされる「編集力」とは

WS	芸術教養講義5	科目コード： 81005
	コミュニケーションを通してアイデアを創り出すワークショップのデザインについて	
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	夏期	
課題提出期間	08/21～08/28	
全体講評 視聴期間	09/13～09/20	
担当者	安齋勇樹*、早川克美	

科目概要と到達目標

<協働のデザインを学ぶ>

この講義は、創造的なコラボレーション（協働）を可能とするワークショップのプログラムデザインについて、その実践のための知識を育むことを目的としています。

ワークショップは骨格を持ってプログラムしないと、ただ楽しいだけのイベントになってしまいます。

多様な人と関わり知を集結させる成功するワークショップの知識を身につけることは、生活の様々な場面で創造的に問題解決する有効なスキルとなるでしょう。

まずワークショップの理論的背景、グループワークで創発を呼び起こすための方法論を学びます。そして様々な対象のワークショップの事例や専門家のインタビューから、自分たちの生活に取り込めるワークショップの可能性を考えていきます。

創造的なコラボレーションが必須である知識社会において、ワークショップデザインの考え方を活用してさまざまな問題を解決出来るようになることを大きな目標としながら講義を進めていきます。

具体的には、前半では、ワークショップの基礎理論を学びながら、創造的なコラボレーションを促進するためのメカニズムを理解します。次にその土台から、複数のワークショップの実践事例を検討することを通して、ワークショップによってアプローチ可能な問題の性質について理解します。講義の後半では、ワークショップデザインの方法をより具体的に学び、ワークショップによって身の回りの問題を解決する能力を身につけます。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示
- ・授業で得た知見の活用姿勢

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	早川克美編、安齋勇樹著『私たちのデザイン5 協創の場のデザインーワークショップで企業と地域が変わる』（芸術教養シリーズ21）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	山内祐平／森玲奈／安齋勇樹著『ワークショップデザイン論-創ることで学ぶ』慶應義塾大学出版会、2013年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 ワークショップとは何か？
- ・2章 ワークショップをデザインする
- ・3章 ワークショップを実施する — 設営と導入
- ・4章 ワークショップを実施する — 知る活動
- ・5章 ワークショップを実施する — 創る活動
- ・6章 ワークショップを実施する — まとめと応用
- ・7章 デザインのチェックポイント
- ・8章 ワークショップの応用事例

- ・ 9章 ユーザーを調査し、課題を発見する（前編）
- ・ 10章 ユーザーを調査し、課題を発見する（後編）
- ・ 11章 固定観念を壊し、解決策を生み出す（前編）
- ・ 12章 固定観念を壊し、解決策を生み出す（後編）
- ・ 13章 当事者の合意を形成し、行動を促進する（前編）
- ・ 14章 当事者の合意を形成し、行動を促進する（後編）
- ・ 15章 ワークショップを活用するために

WS	芸術教養講義5	科目コード： 81005
	コミュニケーションを通してアイデアを創り出すワークショップのデザインについて	
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	冬期	
課題提出期間	02/21～02/28	
全体講評 視聴期間	03/13～03/20	
担当者	安齋勇樹*、早川克美	

科目概要と到達目標

<協働のデザインを学ぶ>

この講義は、創造的なコラボレーション（協働）を可能とするワークショップのプログラムデザインについて、その実践のための知識を育むことを目的としています。

ワークショップは骨格を持ってプログラムしないと、ただ楽しいだけのイベントになってしまいます。

多様な人と関わり知を集結させる成功するワークショップの知識を身につけることは、生活の様々な場面で創造的に問題解決する有効なスキルとなるでしょう。

まずワークショップの理論的背景、グループワークで創発を呼び起こすための方法論を学びます。そして様々な対象のワークショップの事例や専門家のインタビューから、自分たちの生活に取り込めるワークショップの可能性を考えていきます。

創造的なコラボレーションが必須である知識社会において、ワークショップデザインの考え方を活用してさまざまな問題を解決出来るようになることを大きな目標としながら講義を進めていきます。

具体的には、前半では、ワークショップの基礎理論を学びながら、創造的なコラボレーションを促進するためのメカニズムを理解します。次にその土台から、複数のワークショップの実践事例を検討することを通して、ワークショップによってアプローチ可能な問題の性質について理解します。講義の後半では、ワークショップデザインの方法をより具体的に学び、ワークショップによって身の回りの問題を解決する能力を身につけます。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示
- ・授業で得た知見の活用姿勢

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	早川克美編、安齋勇樹著『私たちのデザイン5 協創の場のデザインーワークショップで企業と地域が変わる』（芸術教養シリーズ21）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	山内祐平／森玲奈／安齋勇樹著『ワークショップデザイン論-創ることで学ぶ』慶應義塾大学出版会、2013年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 ワークショップとは何か？
- ・2章 ワークショップをデザインする
- ・3章 ワークショップを実施する — 設営と導入
- ・4章 ワークショップを実施する — 知る活動
- ・5章 ワークショップを実施する — 創る活動
- ・6章 ワークショップを実施する — まとめと応用
- ・7章 デザインのチェックポイント
- ・8章 ワークショップの応用事例

- ・ 9章 ユーザーを調査し、課題を発見する（前編）
- ・ 10章 ユーザーを調査し、課題を発見する（後編）
- ・ 11章 固定観念を壊し、解決策を生み出す（前編）
- ・ 12章 固定観念を壊し、解決策を生み出す（後編）
- ・ 13章 当事者の合意を形成し、行動を促進する（前編）
- ・ 14章 当事者の合意を形成し、行動を促進する（後編）
- ・ 15章 ワークショップを活用するために

WS	芸術教養講義6	科目コード： 81006
日本や東アジアの暮らしの基層にある 伝統文化の成り立ちを反省する		
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	野村朋弘*	

科目概要と到達目標

＜伝統文化を再考する＞

この講義は、今日まで培われてきた伝統的な事象について再考することを目的としています。

「伝統」とはいつから「伝統的なもの」となりうるのか。「伝統」という言葉そのものの成立も視野に含め、再考したいと思います。また今日、伝統的な文化として認識されているものがどのような時代的変遷を経て、その地位を築いたのかを学びます。

古代・中世における日本文化の萌芽を学びつつ、明治維新を受けて伝統的な文化がいかにして現代まで生き延びたのかを考えてみたいと思います。特に明治期の芸能(歌舞伎・雅楽・祭礼芸能)や喫茶を中心に学びます。

芸術教養講義6は、以降にある芸術教養講義7～10の概論ともいうべき、古典的な文化・芸術について再考することを学びます。時代の範疇は古代から近代までですが、特に江戸の幕末維新から明治にかけて中心に見ていきます。

江戸期までに培われてきた文化・芸術が、明治維新という近代化を経て、どのように変化したのか。「変わった」のか、「変わらなかった」のか。それとも、「途絶えてしまった」のか、「生み出された」のか。様々な事例があります。

今日、我々が「伝統文化・芸術」と呼ぶものの中から、幾つかの例をピックアップしながら、その変遷を見つめ、「伝統」とは何かを考えることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	野村朋弘編『伝統を読みなおす1 日本文化の源流を探る』（芸術教養シリーズ22）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	野村朋弘『伝統文化』（茶道教養講座1）、淡交社、2018年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 日本文化の形成
- ・2章 日本文化の基層の成立
- ・3章 明治維新の廃仏毀釈と西洋化
- ・4章 日本文化の再評価と博物館の設立
- ・5章 今日の日本における「伝統」の成立
- ・6章 明治維新後の歌舞伎 — 演劇改良運動の高まり
- ・7章 型の記録 — 歌舞伎の伝統芸能化
- ・8章 歌舞伎座の開場 — 近代都市における劇場
- ・9章 雅楽
- ・10章 近現代の神社祭礼の芸能 — 神への奉納物から人間の娯楽物へ
- ・11章 近代の茶道家元 — 流派組織の確立

- ・12章 近代数寄者の茶の湯 — 政財界における茶の湯流行
- ・13章 茶道の大衆化 — 学校教育と近代の茶会
- ・14章 茶道書籍の刊行 — 文化論と歴史研究の充実
- ・15章 近代の茶道具 — 道具から美術品に

WS	<h2 style="margin: 0;">芸術教養講義6</h2> <p style="margin: 0;">日本や東アジアの暮らしの基層にある 伝統文化の成り立ちを反省する</p>	科目コード： 81006
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	野村朋弘*	

科目概要と到達目標

＜伝統文化を再考する＞

この講義は、今日まで培われてきた伝統的な事象について再考することを目的としています。

「伝統」とはいつから「伝統的なもの」となりうるのか。「伝統」という言葉そのものの成立も視野に含め、再考したいと思います。また今日、伝統的な文化として認識されているものがどのような時代的変遷を経て、その地位を築いたのかを学びます。

古代・中世における日本文化の萌芽を学びつつ、明治維新を受けて伝統的な文化がいかにして現代まで生き延びたのかを考えてみたいと思います。特に明治期の芸能(歌舞伎・雅楽・祭礼芸能)や喫茶を中心に学びます。

芸術教養講義6は、以降にある芸術教養講義7～10の概論ともいうべき、古典的な文化・芸術について再考することを学びます。時代の範疇は古代から近代までですが、特に江戸の幕末維新から明治にかけて中心に見ていきます。

江戸期までに培われてきた文化・芸術が、明治維新という近代化を経て、どのように変化したのか。「変わった」のか、「変わらなかった」のか。それとも、「途絶えてしまった」のか、「生み出された」のか。様々な事例があります。

今日、我々が「伝統文化・芸術」と呼ぶものの中から、幾つかの例をピックアップしながら、その変遷を見つめ、「伝統」とは何かを考えることを目標とします。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	野村朋弘編『伝統を読みなおす1 日本文化の源流を探る』（芸術教養シリーズ22）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	野村朋弘『伝統文化』（茶道教養講座1）、淡交社、2018年

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 日本文化の形成
- ・2章 日本文化の基層の成立
- ・3章 明治維新の廃仏毀釈と西洋化
- ・4章 日本文化の再評価と博物館の設立
- ・5章 今日の日本における「伝統」の成立
- ・6章 明治維新後の歌舞伎 — 演劇改良運動の高まり
- ・7章 型の記録 — 歌舞伎の伝統芸能化
- ・8章 歌舞伎座の開場 — 近代都市における劇場
- ・9章 雅楽
- ・10章 近現代の神社祭礼の芸能 — 神への奉納物から人間の娯楽物へ
- ・11章 近代の茶道家元 — 流派組織の確立

- ・ 12章 近代数寄者の茶の湯 — 政財界における茶の湯流行
- ・ 13章 茶道の大衆化 — 学校教育と近代の茶会
- ・ 14章 茶道書籍の刊行 — 文化論と歴史研究の充実
- ・ 15章 近代の茶道具 — 道具から美術品に

WS	芸術教養講義7 伝統的な暮らしのリズムを作る年中行事や通過儀礼についての考察	科目コード： 81007
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	夏期	
課題提出期間	08/21～08/28	
全体講評 視聴期間	09/13～09/20	
担当者	野村朋弘*、後藤麻衣子	

科目概要と到達目標

<行事と暮らしの文化を学ぶ>

伝統的な生活様式とはどのようなものだったかを、さまざま行事を例にあげながら学ぶことを目的とします。

現代においても行なわれている端午や七夕などの節句、また、正月や盆などの年中行事のなかには、東アジアを淵源に持つものがあります。これらの行事は地域によって守られてきたものが多くあります。

現代にも息づく行事の有り方について考えます。続いて誕生から結婚式、お葬式まで、ひとが一生で経験する通過儀礼についても考えてみたいと思います。また、子どもたちの行事についても注目したいと思います。更に口承文芸としての童話に注目し、どのようなものが生み出され、今日まで語り継がれてきたのかを学びます。

芸術教養講義7は、伝統的な行事を理解することを目的としています。

特に今日の我々には馴染みのある、現在でも行なわれているものを中心にピックアップしてまとめてあります。

行事とは、なんのために行なわれているのか、そして何故、続けられているのか、を考え理解してもらうことを獲得目標とします。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	小川直之・服部比呂美・野村朋弘編『伝統を読みなおす2 暮らしに息づく伝承文化』（芸術教養シリーズ23）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 正月行事
- ・2章 上巳節供
- ・3章 端午節供
- ・4章 七夕
- ・5章 盆
- ・6章 産育習俗 誕生から初誕生まで
- ・7章 七五三
- ・8章 婚姻
- ・9章 葬送儀礼
- ・10章 地蔵信仰
- ・11章 道祖神

- ・ 12章 御霊信仰
- ・ 13章 小さ子譚
- ・ 14章 継子譚
- ・ 15章 異類婚姻譚

WS	<h2 style="margin: 0;">芸術教養講義7</h2> <h3 style="margin: 0;">伝統的な暮らしのリズムを作る年中行事や通過儀礼についての考察</h3>	科目コード： 81007
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	冬期	
課題提出期間	02/21～02/28	
全体講評 視聴期間	03/13～03/20	
担当者	野村朋弘*、後藤麻衣子	

科目概要と到達目標

＜行事と暮らしの文化を学ぶ＞

伝統的な生活様式とはどのようなものだったかを、さまざま行事を例にあげながら学ぶことを目的とします。

現代においても行なわれている端午や七夕などの節句、また、正月や盆などの年中行事のなかには、東アジアを淵源に持つものがあります。これらの行事は地域によって守られてきたものが多くあります。

現代にも息づく行事の有り方について考えます。続いて誕生から結婚式、お葬式まで、ひとが一生で経験する通過儀礼についても考えてみたいと思います。また、子どもたちの行事についても注目したいと思います。更に口承文芸としての童話に注目し、どのようなものが生み出され、今日まで語り継がれてきたのかを学びます。

芸術教養講義7は、伝統的な行事を理解することを目的としています。

特に今日の我々には馴染みのある、現在でも行なわれているものを中心にピックアップしてまとめてあります。

行事とは、なんのために行なわれているのか、そして何故、続けられているのか、を考え理解してもらうことを獲得目標とします。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	小川直之・服部比呂美・野村朋弘編『伝統を読みなおす2 暮らしに息づく伝承文化』（芸術教養シリーズ23）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 正月行事
- ・2章 上巳節供
- ・3章 端午節供
- ・4章 七夕
- ・5章 盆
- ・6章 産育習俗 誕生から初誕生まで
- ・7章 七五三
- ・8章 婚姻
- ・9章 葬送儀礼
- ・10章 地蔵信仰
- ・11章 道祖神

- ・ 12章 御霊信仰
- ・ 13章 小さ子譚
- ・ 14章 継子譚
- ・ 15章 異類婚姻譚

WS	芸術教養講義8 風土に合わせた暮らしの中で培われた 歴史的空間のとらえ方	科目コード： 81008
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	野村朋弘*、小泉祐貴子	

科目概要と到達目標

＜伝統的空間の様式を学ぶ＞

「花鳥風月」を愛でるという意識はいつから生まれたのか。その源流を中国・朝鮮半島・日本の詩歌から読み解きます。

それらの詩歌が詠まれた節句や儀式から、空間の美意識を学びます。続いて、日本庭園の立地条件を読み解き、「見立て」という日本の伝統的空間認識の成立を考えます。こうした伝統的空間がどのような近代の日本庭園に引き継がれてきたのかを代表的な作庭家から学びます。そして伝統的空間にある「かおり」にも注目し、古代から現代に至る五感で味わう生活空間がどのような変遷を経たのかを学びます。

芸術教養講義8では、伝統的な空間についての様式を学びます。

古来、東アジアでは、花鳥風月の世界が身近にあり、自然を愛でる眼差しに溢れていました。この科目では、その眼差しについて学ぶため、15章を3つの大きなテーマに分けて空間の美意識を把握していくことを目指します。

1つ目は中国・朝鮮・日本と東アジアに対する視点です。日本が形成してきた空間認識は、東アジアの伝統的な空間認識を淵源とします。この東アジアの花鳥風月を愛でる空間認識を「詩」をテーマとして考えます。

次に2つ目は庭園です。日本の造園史を繙くことによって、日本人が美しいと感ずる伝統的な空間認識を学びます。

最後の3つ目はかおりです。花鳥風月を愛でる際に、かおりは欠かせないものでした。今日を生きる我々にとっても身近なものをテーマとしながら、美意識の理解を深めることを目標としたいと思います。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	野村朋弘編『伝統を読みなおす3 風月、庭園、香りとはなにか』（芸術教養シリーズ24）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	株式会社セントスケープ・デザインスタジオ http://scentscape-design.com/ 第11章～15章の参考資料として、実際にさまざまな香りを嗅ぎ、そのイメージを膨らませて頂けるような香りキットをご用意しました。香りのイメージを表現する練習にご活用ください。 下記リンクからセントスケープ・デザインスタジオのオンラインショップSCENTSCAPEをご覧ください。 http://scentscape.ocnk.net/ http://scentscape.ocnk.net/ ご希望の方はこの販売サイトの「教材用香りキット」よりご注文ください。キットの香りを活用してコラージュを作成するワークショップも実施しています。 詳細はお問合せください（ info@scentscape-design.com ）。

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならぬため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

- ・1章 中国古代漢詩にみる「風月」の空間美意識
- ・2章 韓国古代漢詩にみる「風月」の空間美意識
- ・3章 日本古代漢詩にみる「風月」の空間美意識
- ・4章 東アジア重陽の節句にみる空間美意識
- ・5章 中国曲水宴にみる庭園文化の形成
- ・6章 日本庭園の伝統的空間認識
- ・7章 庭園の立地環境を読み解く
- ・8章 庭園意匠の抽象化
- ・9章 近代日本庭園のめざした自然
- ・10章 現代の「市中の山居」をつくり出す
- ・11章 香りの「いろは」
- ・12章 日本の香りが来た道
- ・13章 香り文化の広がり
- ・14章 『源氏物語』の風情を彩る庭園の香り
- ・15章 桂離宮の「香り風景」、そして現代へ

WS	<h2 style="margin: 0;">芸術教養講義8</h2> <h3 style="margin: 0;">風土に合わせた暮らしの中で培われた 歴史的空間のとらえ方</h3>	科目コード： 81008
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	野村朋弘*、小泉祐貴子	

科目概要と到達目標

＜伝統的空間の様式を学ぶ＞

「花鳥風月」を愛でるという意識はいつから生まれたのか。その源流を中国・朝鮮半島・日本の詩歌から読み解きます。

それらの詩歌が詠まれた節句や儀式から、空間の美意識を学びます。続いて、日本庭園の立地条件を読み解き、「見立て」という日本の伝統的空間認識の成立を考えます。こうした伝統的空間がどのような近代の日本庭園に引き継がれてきたのかを代表的な作庭家から学びます。そして伝統的空間にある「かおり」にも注目し、古代から現代に至る五感で味わう生活空間がどのような変遷を経たのかを学びます。

芸術教養講義8では、伝統的な空間についての様式を学びます。

古来、東アジアでは、花鳥風月の世界が身近にあり、自然を愛でる眼差しに溢れていました。この科目では、その眼差しについて学ぶため、15章を3つの大きなテーマに分けて空間の美意識を把握していくことを目指します。

1つ目は中国・朝鮮・日本と東アジアに対する視点です。日本が形成してきた空間認識は、東アジアの伝統的な空間認識を淵源とします。この東アジアの花鳥風月を愛でる空間認識を「詩」をテーマとして考えます。

次に2つ目は庭園です。日本の造園史を繙くことによって、日本人が美しいと感ずる伝統的な空間認識を学びます。

最後の3つ目はかおりです。花鳥風月を愛でる際に、かおりは欠かせないものでした。今日を生きる我々にとっても身近なものをテーマとしながら、美意識の理解を深めることを目標としたいと思います。

評価基準と成績評価方法

- ・文章表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の明示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。
復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	野村朋弘編『伝統を読みなおす3 風月、庭園、香りとはなにか』（芸術教養シリーズ24）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	株式会社セントスケープ・デザインスタジオ http://scentscape-design.com/ 第11章～15章の参考資料として、実際にさまざまな香りを嗅ぎ、そのイメージを膨らませて頂けるような香りキットをご用意しました。香りのイメージを表現する練習にご活用ください。 下記リンクからセントスケープ・デザインスタジオのオンラインショップSCENTSCAPEをご覧ください。 http://scentscape.ocnk.net/ http://scentscape.ocnk.net/ ご希望の方はこの販売サイトの「教材用香りキット」よりご注文ください。キットの香りを活用してコラージュを作成するワークショップも実施しています。 詳細はお問合せください（ info@scentscape-design.com ）。

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

- ・1章 中国古代漢詩にみる「風月」の空間美意識
- ・2章 韓国古代漢詩にみる「風月」の空間美意識
- ・3章 日本古代漢詩にみる「風月」の空間美意識
- ・4章 東アジア重陽の節句にみる空間美意識
- ・5章 中国曲水宴にみる庭園文化の形成
- ・6章 日本庭園の伝統的空間認識
- ・7章 庭園の立地環境を読み解く
- ・8章 庭園意匠の抽象化
- ・9章 近代日本庭園のめざした自然
- ・10章 現代の「市中の山居」をつくり出す
- ・11章 香りの「いろは」
- ・12章 日本の香りが来た道
- ・13章 香り文化の広がり
- ・14章 『源氏物語』の風情を彩る庭園の香り
- ・15章 桂離宮の「香り風景」、そして現代へ

WS	芸術教養講義9 文物の蒐集と展示を伝統的な編集的 思考法として捉えて考察する	科目コード： 81009
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	夏期	
課題提出期間	08/21～08/28	
全体講評 視聴期間	09/13～09/20	
担当者	野村朋弘*、会田大輔	

科目概要と到達目標

<蒐集、展示、制作の伝統文化>

この講義では伝統的な文物がどのように継承されてきたのかを学びます。

文物のコレクションの画期は大きく分けて三つあります。まず中国の歴代王朝において皇帝・文人がスポンサーとして制作・蒐集した書画・文物に注目します。続いて、それらのコレクションである「唐物」が日本にも輸入され、室町後期から織豊期に掛けて足利義政や織田信長によって評価の再編成が行なわれます。「唐物」に対して、「楽焼き」など日本での独自の美意識がどのように成立したのかを考えます。そして明治維新を経て為政者の転換が行なわれ、文物のスポンサーの再編成が行なわれます。新たなスポンサーとなった財閥の文人たちが、どのような意図を持ってコレクションをして行ったのかを考えてみたいと思います。

芸術教養講義9では、歴史的なコレクションの蒐集の流れを理解することが主目的です。

今日、我々が見ることができ、国宝といった宝物が、どのような意図をもって制作され、蒐集されたのか。歴代の審美眼を学びつつ、文物のもつ美しさについて理解を深めることが目標です。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	野村朋弘編『伝統を読みなおす4 文化を編集するまなざし ―蒐集、展示、制作の歴史』（芸術教養シリーズ25）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 中国美術の最高峰 ― 北宋の美術
- ・2章 風流天子徽宗
- ・3章 花鳥画の読み解き方
- ・4章 明代の美術
- ・5章 書画の商品化
- ・6章 茶の湯と茶道具 ― 1300年のあゆみ
- ・7章 唐物コレクションの基準 ― 『君台観左右帳記』の世界
- ・8章 名物茶器の誕生 ― 織田信長のコレクション
- ・9章 唐物から和物へ ― 千利休の登場と豊臣秀吉のコレクション
- ・10章 和物の多様化とその展開 ― 武家茶人の登場から不昧コレクションまで
- ・11章 廃仏毀釈と文化財保護
- ・12章 博物館・美術館の登場
- ・13章 名家のコレクションの散逸と保存
- ・14章 新興コレクターの蒐集活動
- ・15章 戦後の動向

WS	芸術教養講義9 文物の蒐集と展示を伝統的な編集的 思考法として捉えて考察する	科目コード： 81009
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	冬期	
課題提出期間	02/21～02/28	
全体講評 視聴期間	03/13～03/20	
担当者	野村朋弘*、会田大輔	

科目概要と到達目標

<蒐集、展示、制作の伝統文化>

この講義では伝統的な文物がどのように継承されてきたのかを学びます。

文物のコレクションの画期は大きく分けて三つあります。まず中国の歴代王朝において皇帝・文人がスポンサーとして制作・蒐集した書画・文物に注目します。続いて、それらのコレクションである「唐物」が日本にも輸入され、室町後期から織豊期に掛けて足利義政や織田信長によって評価の再編成が行なわれます。「唐物」に対して、「楽焼き」など日本での独自の美意識がどのように成立したのかを考えます。そして明治維新を経て為政者の転換が行なわれ、文物のスポンサーの再編成が行なわれます。新たなスポンサーとなった財閥の文人たちが、どのような意図を持ってコレクションをして行ったのかを考えてみたいと思います。

芸術教養講義9では、歴史的なコレクションの蒐集の流れを理解することが主目的です。

今日、我々が見ることができ、国宝といった宝物が、どのような意図をもって制作され、蒐集されたのか。歴代の審美眼を学びつつ、文物のもつ美しさについて理解を深めることが目標です。

評価基準と成績評価方法

- ・ 文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・ 授業の趣旨および課題内容の理解
- ・ 授業で扱った事実の正確な把握
- ・ 受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	野村朋弘編『伝統を読みなおす4 文化を編集するまなざし 一蒐集、展示、制作の歴史』（芸術教養シリーズ25）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 中国美術の最高峰 ー 北宋の美術
- ・2章 風流天子徽宗
- ・3章 花鳥画の読み解き方
- ・4章 明代の美術
- ・5章 書画の商品化
- ・6章 茶の湯と茶道具 ー 1300年のあゆみ
- ・7章 唐物コレクションの基準 ー 『君台観左右帳記』の世界
- ・8章 名物茶器の誕生 ー 織田信長のコレクション
- ・9章 唐物から和物へ ー 千利休の登場と豊臣秀吉のコレクション
- ・10章 和物の多様化とその展開 ー 武家茶人の登場から不昧コレクションまで
- ・11章 廃仏毀釈と文化財保護
- ・12章 博物館・美術館の登場
- ・13章 名家のコレクションの散逸と保存
- ・14章 新興コレクターの蒐集活動
- ・15章 戦後の動向

WS	芸術教養講義10 人や地域をつなぐ文化的交流のさまざま なありかたやその歴史	科目コード： 81010
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	春期	
課題提出期間	05/21～05/28	
全体講評 視聴期間	06/13～06/20	
担当者	野村朋弘*、河野保博	

科目概要と到達目標

＜文化的交流の歴史を探る＞

この講義では伝統的な地域のコミュニケーションがどのように形成されたか、また、文化がどのように広がっていったのかを考えます。

まず、日本国内で形成されたコミュニティについて、古代・中世から現代まで、いくつかのグループを例にとり考えてみたいと思います。続いて、人が異文化に接したり、新しい学問に触れる機会であった旅と、古代から近世・近代までの学びの有り方について眺めていきましょう。

芸術教養講義10は、コミュニティ、旅、そして学びという、大きく分けて3つのカテゴリーに分けられます。

それぞれ形成された歴史を学び、文化的な交流がどのように形成されたのかを理解することを獲得目標としています。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	野村朋弘編『伝統を読みなおす5 人と文化をつなぐものーコミュニティ・旅・学びの歴史』（芸術教養シリーズ26）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 一揆
- ・2章 講
- ・3章 祭祀集団
- ・4章 子ども集団
- ・5章 若者集団
- ・6章 町内会
- ・7章 古代の旅ー アジアを歩く人々と共同体
- ・8章 紀行文にみる中世の旅ー 政治・文化に果たした役割
- ・9章 近世の旅と社会
- ・10章 近現代のツーリズム
- ・11章 日本への文字・典籍の伝来
- ・12章 「遣唐使」以後の文化交流
- ・13章 公家社会の学び、有職故実の形成
- ・14章 近世日本社会と「学問」の多様性ー 比較史的視点から
- ・15章 「学問」の変容と「身分階層」の解体ー 寛政の改革から幕末・明治期まで

WS	芸術教養講義10 人や地域をつなぐ文化的交流のさまざま なありかたやその歴史	科目コード： 81010
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート試験→全体講評動画の視聴	
課題提出形態	airU	
開講期	秋期	
課題提出期間	11/21～11/28	
全体講評 視聴期間	12/13～12/20	
担当者	野村朋弘*、河野保博	

科目概要と到達目標

＜文化的交流の歴史を探る＞

この講義では伝統的な地域のコミュニケーションがどのように形成されたか、また、文化がどのように広がっていったのかを考えます。

まず、日本国内で形成されたコミュニティについて、古代・中世から現代まで、いくつかのグループを例にとり考えてみたいと思います。続いて、人が異文化に接したり、新しい学問に触れる機会であった旅と、古代から近世・近代までの学びの有り方について眺めていきましょう。

芸術教養講義10は、コミュニティ、旅、そして学びという、大きく分けて3つのカテゴリーに分けられます。

それぞれ形成された歴史を学び、文化的な交流がどのように形成されたのかを理解することを獲得目標としています。

評価基準と成績評価方法

- ・文章の表記の正確さと構成の明瞭性
- ・授業の趣旨および課題内容の理解
- ・授業で扱った事実の正確な把握
- ・受講生自身の見解の提示

以上の評価観点を総合的に満たしていることを合格の基準とします。

WS科目の成績評価は課題の総合評価となります。

予習・復習

予習として、授業開始までにシラバスをよく読み、知らない専門用語等は下調べしましょう。また、テキストを入手し、シラバスと照らし合わせて授業の流れをイメージしておきましょう。

復習として、全体講評の内容を参考にレポートやテキストの振り返りを行ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	野村朋弘編『伝統を読みなおす5 人と文化をつなぐもの —コミュニティ・旅・学びの歴史』（芸術教養シリーズ26）、藝術学舎、2014年
参考文献・URL	なし

注意事項

WS科目は動画教材を視聴して学習を進める授業形態です。

動画を最後まで視聴すると、次のページへ進むことができます。

「教員コメント」を含むすべての動画教材の視聴が終わると、「レポート試験」のページを見ることができます。問題内容や提出物を確認し、レポートに取り組み、提出期限を守ってレポート試験のページから提出してください。

レポート試験提出後、必ず「全体講評」を視聴してください。レポート試験を提出していても、「全体講評」を視聴していなければ授業は欠席扱いとなり、不合格となります。

※確実に最後まで視聴を完了していなければならないため、視聴後に「採点結果確認へ」の矢印がグレーから青に変わっていることを確認するようにしてください。万が一、視聴済みにならない場合は、必ず全体講評の視聴期間内にコンシェルジュまで連絡してください。期間外に連絡いただいても対応できません。

※全体講評視聴期間は各自で確認しておくこと。

■「授業のコミュニティ」について

WS科目には、「授業コミュニティ」が設置されています。

授業コミュニティの中には「道標」「お知らせ」「広場」の3つのトピックがあります。特に「道標」では、担当教員より授業の補足や教材の訂正事項などについて書き込みがあります。WS科目のレポート試験では、「道標」の補足を全て確認していることを前提としています。必ず、定期的に確認するようにしてください。

WS科目の場合は、1章～15章の動画ページの右下にある「授業コミュニティ」ボタンから入れます。

授業の流れ

- ・1章 一揆
- ・2章 講
- ・3章 祭祀集団
- ・4章 子ども集団
- ・5章 若者集団
- ・6章 町内会
- ・7章 古代の旅 — アジアを歩く人々と共同体
- ・8章 紀行文にみる中世の旅 — 政治・文化に果たした役割
- ・9章 近世の旅と社会
- ・10章 近現代のツーリズム
- ・11章 日本への文字・典籍の伝来
- ・12章 「遣唐使」以後の文化交流
- ・13章 公家社会の学び、有職故実の形成
- ・14章 近世日本社会と「学問」の多様性 — 比較史的視点から
- ・15章 「学問」の変容と「身分階層」の解体 — 寛政の改革から幕末・明治期まで